

令和4年度  
芦原温泉上水道財産区水道事業会計  
決算審査意見書

あわらし市監査委員

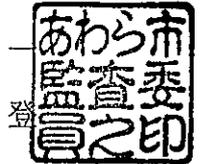
あ 監 委 第 57 号

令 和 5 年 8 月 7 日

あわら市長 森 之 嗣 様

あわら市監査委員 伊 東 秀 一

あわら市監査委員 北 島



令和 4 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算の審査意見の提出について

地方公営企業法第30条第 2 項の規定により、審査に付された令和 4 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

## 目 次

### 芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算審査意見

第1 審査の対象	-----	1
第2 審査の期日	-----	1
第3 審査の方法	-----	1
第4 審査の結果	-----	1
・ 芦原温泉上水道財産区水道事業会計	-----	2

### 凡 例

1. 文及び図表中の金額・比率は、原則として表示単位未満を四捨五入したものであり、したがって、合計と内訳の計、差引等が一致しない場合がある。
2. ポイントとは、百分率（%）間の単純差引数値である。
3. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「－」…… 該当数値のないもの、意味のないもの
  - 「△」…… 比較により減少したもの
  - 「皆増」…… 前年度に数値がなく全額増加したもの
  - 「皆減」…… 当年度に数値がなく全額減少したもの

# 令和4年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

## 第1 審査の対象

令和4年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

## 第2 審査の期日

令和5年7月14日

## 第3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

## 第4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

## 1 業務実績について

普及状況は前年度に比べ、給水戸数が1戸増加し2,196戸となったものの、給水区域内人口は102人減少し2,524人となった。

年間配水量は12万3,389<sup>m<sup>3</sup></sup> (12.5%) 増加し111万1,744<sup>m<sup>3</sup></sup>となり、年間有収水量も、12万1,912<sup>m<sup>3</sup></sup> (12.6%) 増加し108万6,178<sup>m<sup>3</sup></sup>となった。有収率については前年度に比べ0.1%増加し、97.7%となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

### 主 な 業 務 実 績

区 分		令和3年度	令和4年度	増減値	増減率
普及 状況	総 人 口 (A)	27,084 人	26,725 人	△ 359 人	△ 1.3 %
	給 水 戸 数	2,195 戸	2,196 戸	1 戸	0.1 %
	給水区域内人口 (B)	2,626 人	2,524 人	△ 102 人	△ 3.9 %
	普 及 率	100.0 %	100.0 %	0 %	—
年 間 配 水 量 (C)		988,355 <sup>m<sup>3</sup></sup>	1,111,744 <sup>m<sup>3</sup></sup>	123,389 <sup>m<sup>3</sup></sup>	12.5 %
年 間 有 収 水 量 (D)		964,266 <sup>m<sup>3</sup></sup>	1,086,178 <sup>m<sup>3</sup></sup>	121,912 <sup>m<sup>3</sup></sup>	12.6 %
一 日 配 水 能 力 (E)		14,260 <sup>m<sup>3</sup></sup>	14,260 <sup>m<sup>3</sup></sup>	0 <sup>m<sup>3</sup></sup>	—
一 日 最 大 配 水 量 (F)		3,832 <sup>m<sup>3</sup></sup>	5,236 <sup>m<sup>3</sup></sup>	1,404 <sup>m<sup>3</sup></sup>	36.6 %
一 日 平 均 配 水 量 (G)		2,708 <sup>m<sup>3</sup></sup>	3,046 <sup>m<sup>3</sup></sup>	338 <sup>m<sup>3</sup></sup>	12.5 %
導 送 配 水 管 延 長 (H)		32,164 m	32,164 m	0 m	—
有 収 率 (D/C)		97.6 %	97.7 %	0.1 %	0.1 %
施 設 利 用 率 (G/E)		19.0 %	21.4 %	2.4 %	12.7 %
負 荷 率 (G/F)		70.7 %	58.2 %	△ 12.5 %	△ 17.7 %
最 大 稼 働 率 (F/E)		26.9 %	36.7 %	9.8 %	36.6 %
配 水 管 使 用 効 率 (C/H)		30.7 %	34.6 %	3.8 %	12.5 %

## 2 予算執行について

### (1) 収益的収入

当年度の収益的収入は、予算額 1 億 9,178 万 9 千円に対し決算額は 2 億 239 万 9 千円で、1,061 万円 (5.5%) 上回っている。

#### 収益的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	191,789	202,399	10,610	5.5
1 営業収益	185,112	195,725	10,613	5.7
2 営業外収益	6,677	6,674	△ 3	0.0

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1,759万9千円を含む。

### (2) 収益的支出

当年度の収益的支出は、予算額 1 億 7,690 万 4 千円に対し決算額は 1 億 7,695 万円で、執行率 100.1%となった。

#### 収益的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	176,904	176,950	△ 46	100.1
1 営業費用	170,603	169,705	898	99.5
2 営業外費用	5,776	6,934	△ 1,158	120.0
3 特別損失	312	311	1	99.8
4 予備費	213	0	213	-

(注) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税859万1千円を含む。

(3) 資本的収入

当年度の資本的収入は、予算額 140 万 5 千円 に対し決算額は 27 万 9 千円で、112 万 7 千円 (80.2%) の不足となっている。

資本的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	1,405	279	△ 1,127	△ 80.2
1 工事負担金	165	39	△ 127	△ 76.7
2 他会計負担金	1,240	240	△ 1,000	△ 80.6

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税4千円を含む。

(4) 資本的支出

当年度の資本的支出は、予算額3,524万円に対し決算額は3,137万9千円、執行率89.0%となっており、386万1千円の不用額を生じている。

資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	35,240	31,379	0	3,861	89.0
1 建設改良費	35,240	31,379	0	3,861	89.0
(1) 取水設備改良費	6,908	6,908	0	0	100.0
(2) 送水設備改良費	2,200	1,815	0	385	82.5
(3) 配水設備改良費	10,730	9,269	0	1,461	86.4
(4) 営業設備費	0	0	0	0	-
(5) 事務費	15,402	13,387	0	2,015	86.9

(注) 決算額には、仮払消費税164万円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 3,110 万円は、当年度分損益勘定留保資金 2,946 万 2 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 163 万 8 千円で補てんしている。

### 3 経営成績について

#### (1) 経営成績の概況

当年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

#### 損益計算書前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和4年度	増減額	増減率
営業収益	155,032	178,126	23,093	14.9
給水収益	151,512	172,085	20,572	13.6
受託工事収益	63	71	8	12.2
その他営業収益	3,457	5,970	2,513	72.7
営業費用	158,108	161,137	3,029	1.9
原水及び浄水費	78,140	78,814	674	0.9
配水及び給水費	4,705	4,351	△ 354	△ 7.5
受託工事費	25	52	27	108.3
総 係 費	29,678	30,927	1,249	4.2
減価償却費	42,704	42,211	△ 493	△ 1.2
資産減耗費	43	230	187	430.9
その他営業費用	2,812	4,551	1,739	61.9
営業損益	△ 3,076	16,988	20,064	652.3
営業外収益	6,709	6,658	△ 51	△ 0.8
受取利息及び配当金	33	21	△ 11	△ 34.1
長期前受金戻入	6,667	6,637	△ 31	△ 0.5
雑 収 益	9	0	△ 9	皆減
営業外費用	0	0	0	-
雑 支 出	0	0	0	-
經常損益	3,633	23,646	20,013	△ 550.8
特別損失	81	288	207	254.9
過年度損益修正損	81	288	207	254.9
その他特別損失	0	0	0	-
当年度純利益	3,552	23,358	19,806	△ 557.6
前年度繰越利益剰余金	39,782	43,334	3,552	8.9
当年度未処分利益剰余金	43,334	66,692	23,358	53.9

営業収益は、前年度に比べ2,309万3千円(14.9%)増加し、1億7,812万6千円となった。これは主に、給水収益が2,057万2千円(13.6%)増加したことによるものである。営業費用は、前年度に比べ302万9千円(1.9%)増加し、1億6,113万7千円となった。

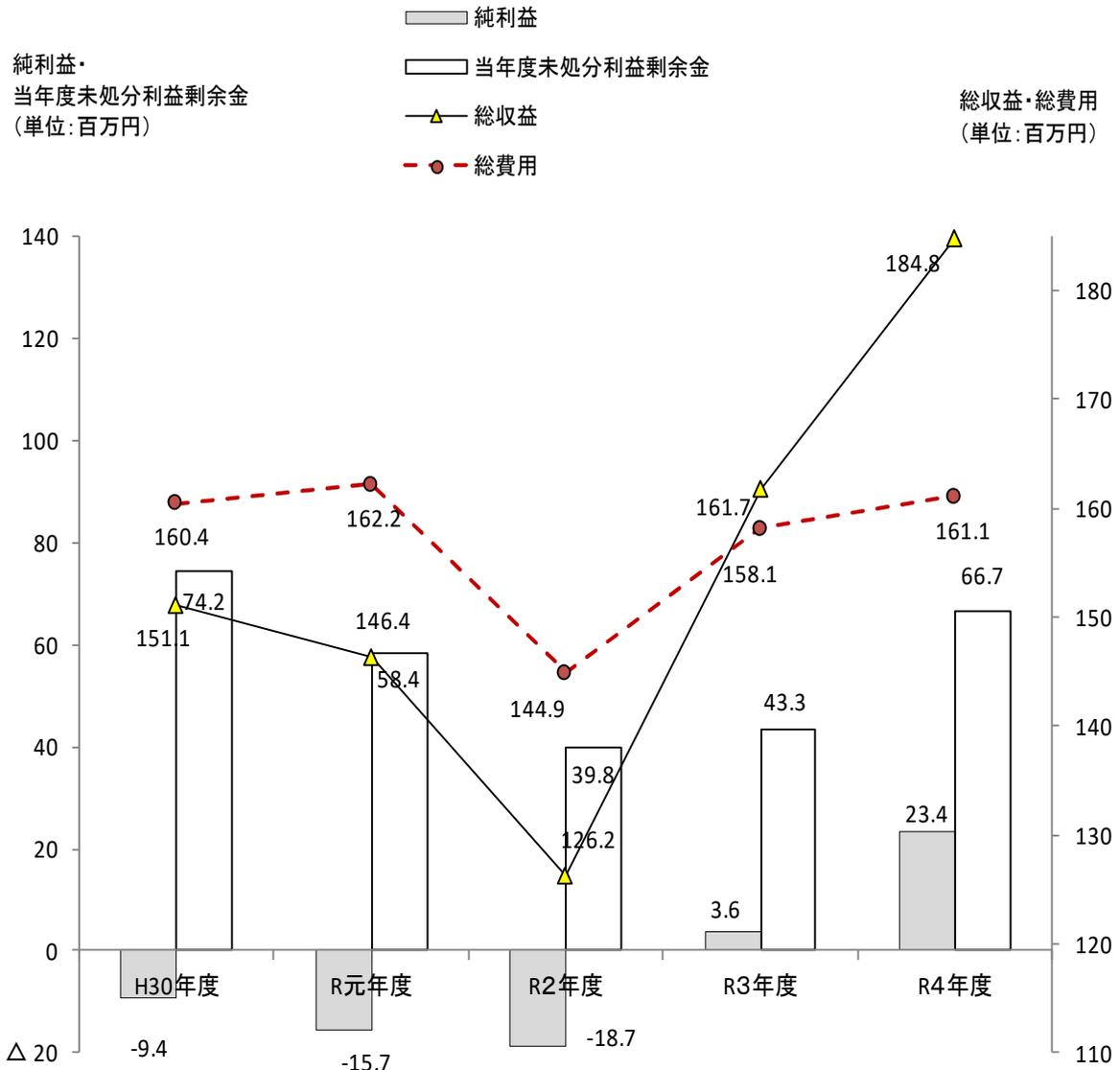
また、営業収益から営業費用を差し引いた営業損益は1,698万8千円の営業利益となり、前年度に比べ2,006万4千円(652.3%)プラスとなった。

営業外収益は、前年度に比べ5万1千円(0.8%)減少し、665万8千円となった。営業損益に営業外収益を加算した結果、経常損益は2,364万6千円のプラスとなった。

特別損失は、前年度に比べ20万7千円(254.9%)増加し、28万8千円となった。経常損益から特別損失を差し引いた結果、2,335万8千円の当年度純利益となった。

なお、当年度純利益に前年度繰越利益剰余金4,333万4千円を加えた結果、当年度未処分利益剰余金は6,669万2千円となった。

過去5年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



(2) 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

No.	区 分	令和3年度	令和4年度	増減額	増減率
1	人 件 費	23,255	23,678	423	1.8
2	備消耗品費	540	556	16	2.9
3	委 託 料	5,625	5,763	138	2.4
4	賃 借 料	1,549	1,704	155	10.0
5	修 繕 費	3,719	3,023	△ 696	△ 18.7
6	動 力 費	5,818	7,022	1,204	20.7
7	補 償 費	1,936	1,926	△ 10	△ 0.5
8	報 償 費	460	460	0	—
9	ペットボトル水売却原価	2,812	4,551	1,739	61.9
10	受 水 費	65,536	65,536	0	—
11	有形固定資産減価償却費	42,704	42,211	△ 493	△ 1.2
12	そ の 他	4,154	4,707	552	13.3
	合 計	158,108	161,137	3,029	1.9

費用合計は、302万9千円（1.9%）増加し、1億6,113万7千円となった。

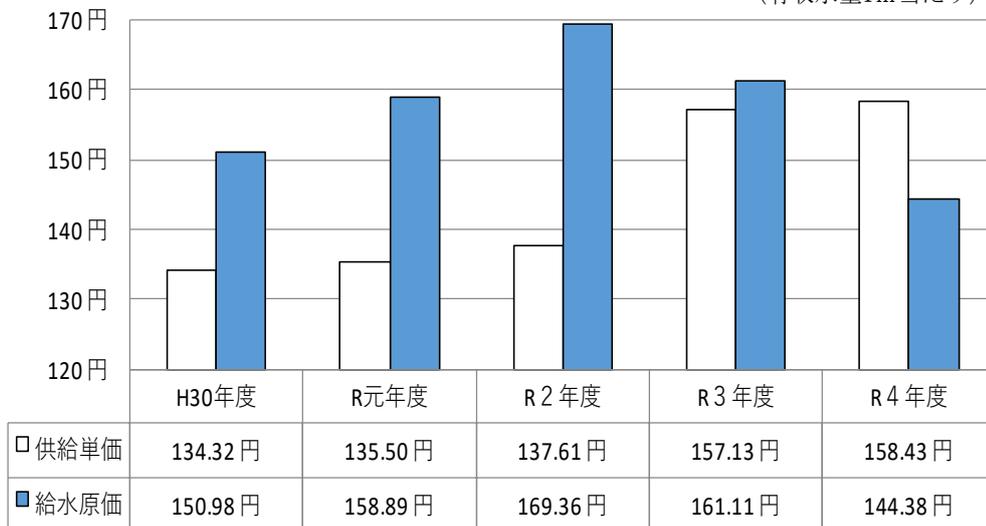
費用を性質別に見ると、前年度に比べ、ペットボトル水売却原価が173万9千円（61.9%）、動力費が120万4千円（20.7%）、増加したことが主な要因である。

(3) 供給単価及び給水原価

供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。

供給単価及び給水原価の推移

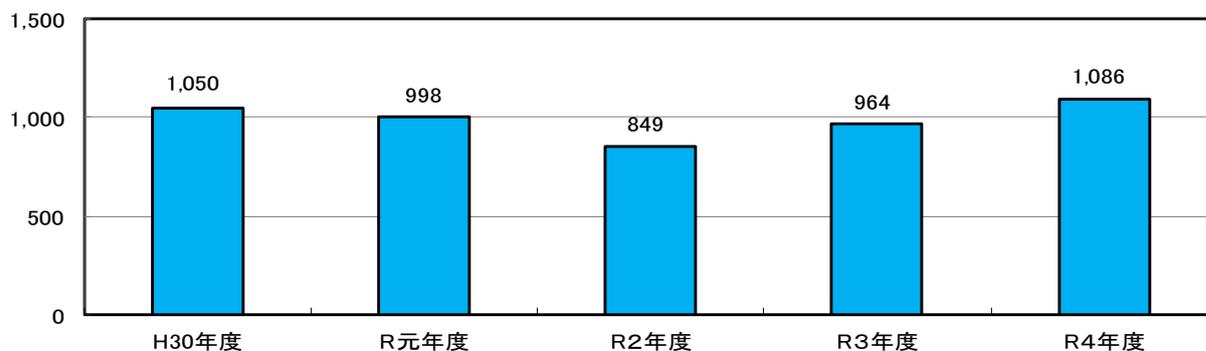
(有収水量1m<sup>3</sup>当たり)



(4) 有収水量の推移

有 収 水 量 の 推 移

(単位: 千m<sup>3</sup>)



年間有収水量については、前年度に比べて12万1,912 m<sup>3</sup> (12.6%) 増加し、108万6,178 m<sup>3</sup>となり、前年度を上回っている。

#### 4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

#### 貸借対照表前年度比較

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和4年度	増減額	増減率
固 定 資 産	1,026,114	1,013,410	△ 12,705	△ 1.2
有形固定資産	1,026,114	1,013,410	△ 12,705	△ 1.2
土 地	145,535	145,535	0	-
建 物	48,695	47,924	△ 771	△ 1.6
構 築 物	790,302	782,361	△ 7,941	△ 1.0
機 械 及 び 運 搬 具	26,431	25,369	△ 1,063	△ 4.0
工 具 器 具 及 び 備 品	4,943	4,358	△ 585	△ 11.8
建 設 仮 勘 定	10,209	7,864	△ 2,345	△ 23.0
流 動 資 産	217,120	249,833	32,713	15.1
現 金 預 金	195,035	225,127	30,092	15.4
未 収 金	21,597	23,404	1,808	8.4
貯 蔵 品	489	1,302	813	166.1
資 産 合 計	1,243,235	1,263,243	20,008	1.6

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和4年度	増減額	増減率
固定負債	8,470	9,027	557	6.6
引当金	8,470	9,027	557	6.6
退職給付引当金	4,456	5,013	557	12.5
修繕引当金	4,014	4,014	0	-
流動負債	12,795	15,265	2,471	19.3
引当金	1,762	1,707	△ 54	△ 3.1
賞与引当金	1,513	1,465	△ 48	△ 3.2
法定福利費引当金	249	243	△ 7	△ 2.7
未払金	6,560	8,949	2,388	36.4
前受金	27	188	161	586.6
預り金	4,445	4,421	△ 24	△ 0.5
繰延収益	85,034	78,622	△ 6,413	△ 7.5
長期前受金	341,121	341,361	240	0.1
収益化累計額	△ 256,087	△ 262,739	△ 6,653	2.6
負債合計	106,299	102,914	△ 3,385	△ 3.2
資本金	707,616	707,616	0	-
自己資本金	707,616	707,616	0	-
補てん財源処分組入額	0	0	0	-
剰余金	429,320	452,713	23,393	5.4
資本剰余金	42,134	42,169	35	0.1
工事負担金	39,265	39,300	35	0.1
他会計負担金	2,870	2,870	0	-
利益剰余金	387,186	410,544	23,358	6.0
利益積立金	24,121	24,121	0	-
建設改良積立金	87,843	87,843	0	-
当年度未処分利益剰余金	43,334	66,692	23,358	53.9
処分済利益剰余金	231,887	231,887	0	-
資本合計	1,136,936	1,160,329	23,393	2.1
負債・資本合計	1,243,235	1,263,243	20,008	1.6

(1) 資産

当年度の資産合計は、前年度に比べ2,000万8千円（1.6%）増加し、12億6,324万3千円となった。

固定資産は、前年度に比べ1,270万5千円（1.2%）減少し、10億1,341万円となった。

流動資産は、前年度に比べ3,271万3千円（15.1%）増加し、2億4,983万3千円となった。

(2) 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べ338万5千円（3.2%）減少し、1億291万4千円となった。

固定負債は、前年度と比べ55万7千円（6.6%）増加し、902万7千円となった。

流動負債は、前年度に比べ247万1千円（19.3%）増加し、1,526万5千円となった。これは主に、未払金が238万8千円（36.4%）増加したことなどによるものである。

資本金は、7億761万6千円と前年同額であった。

また剰余金は、2,339万3千円（5.4%）増加し4億5,271万3千円となった。

その結果、当年度の資本合計は前年度に比べ2,339万3千円（2.1%）増加し、11億6,032万9千円となった。

水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。

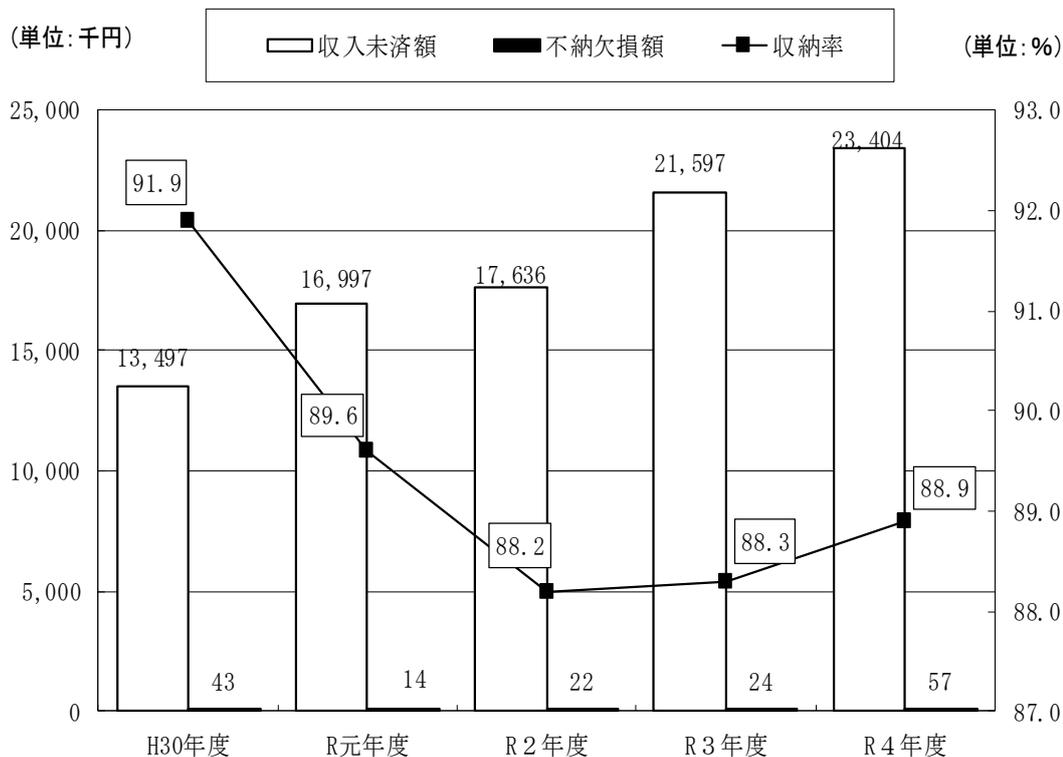
なお、水道料金の収入未済額は2,340万4千円で収納率は88.9%となっている。

### 水道料金収納状況表

(単位：千円、%)

区 分		調定額	収入済額	不納 欠損額	収入未済額	収納率
R 4	現年度	189,293	171,411	0	17,883	90.6
	過年度	21,597	16,018	57	5,522	74.2
	計	210,890	187,429	57	23,404	88.9
R 3	現年度	166,665	150,481	0	16,184	90.3
	過年度	17,636	12,199	24	5,413	69.2
	計	184,301	162,680	24	21,597	88.3
比 較	現年度	22,629	20,930	0	1,699	-
	過年度	3,961	3,819	33	109	-
	計	26,589	24,749	33	1,808	-

### 収入未済額・不納欠損と収納率の推移



## 5 審査のまとめ

### 1 決算の総括

芦原温泉上水道財産区水道事業は、昭和43年に給水を開始して以来、市民が健康で快適な生活を営む上で欠かせない社会基盤として事業を継続してきた。

本年度の収益は、新型コロナウイルス感染症が発生した令和2年度や3年度と比較して年々右肩上がり、順調に実績を伸ばしていると評価できる。年間給水量は、新型コロナ関連の制限が緩和されたことから、営業用の使用水量が回復、また、令和5年1月下旬に発生した寒波と大雪の影響により融雪使用等が増加したことから、対前年比12.6%、121,912m<sup>3</sup>増の1,086,178m<sup>3</sup>となった。

収益的収支における収入は、営業収益178,125,816円、営業外収益6,657,995円を計上し、合計184,783,811円となり、対前年比14.2%、23,042,413円の増収となった。一方の支出は、営業費用161,137,392円、特別損失288,419円を計上し、合計161,425,811円となり、対前年比2.0%、3,236,424円の増となったものの、給水量の増加及びその他営業収益（ボトル水販売収益）の増加により、23,358,000円の純利益を計上することができ、令和3年度の料金改定後2年続けての黒字となった。

また、資本的収支においては、総事業費31,378,806円で、4号井戸の更新を行った他、第3配水池外壁の改修工事、送水ポンプ場高圧受電盤設備の更新等を行った。

### 2 審査意見

- (1) 経営成績をみると、平成30年度から令和2年度まで3年連続の赤字決算であったが、令和3年度、4年度と2年連続黒字決算となった。これは令和3年4月1日からの料金改定はもとより、あわら温泉利用客数の回復により給水収益がプラスに転じたことが主な要因である。今後も給水量の推移を注視しながら、経費削減に取り組まれない。
- (2) 水道料金の収納状況は、収納率が平成27年度から平成30年度の期間は92.0%前後を推移していたものの、令和元年度は89.6%と大きく下降した。これはその年に発生した高額滞納者の滞納額が収入未済額の大部分を占めていることが要因である。令和3年度より収納率は微増ながら改善されており、利用者間の公平性確保の面からも、引き続き滞納の発生防止や徴収強化に努められたい。
- (3) 水道は、日常生活の営みとともに、産業活動を推進していくうえで欠くことのできないライフラインである。しかし、水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水型給水器具の普及、近年頻発する自然災害等、予測の出来ない状況である。更には設備投資に要する経費の増額など、経営環境は厳しさを増す一方である。以上のことから、費用の4割強を占める県水受水量の見直しについても、今まで以上に要望し経営基盤の強化に努められたい。